

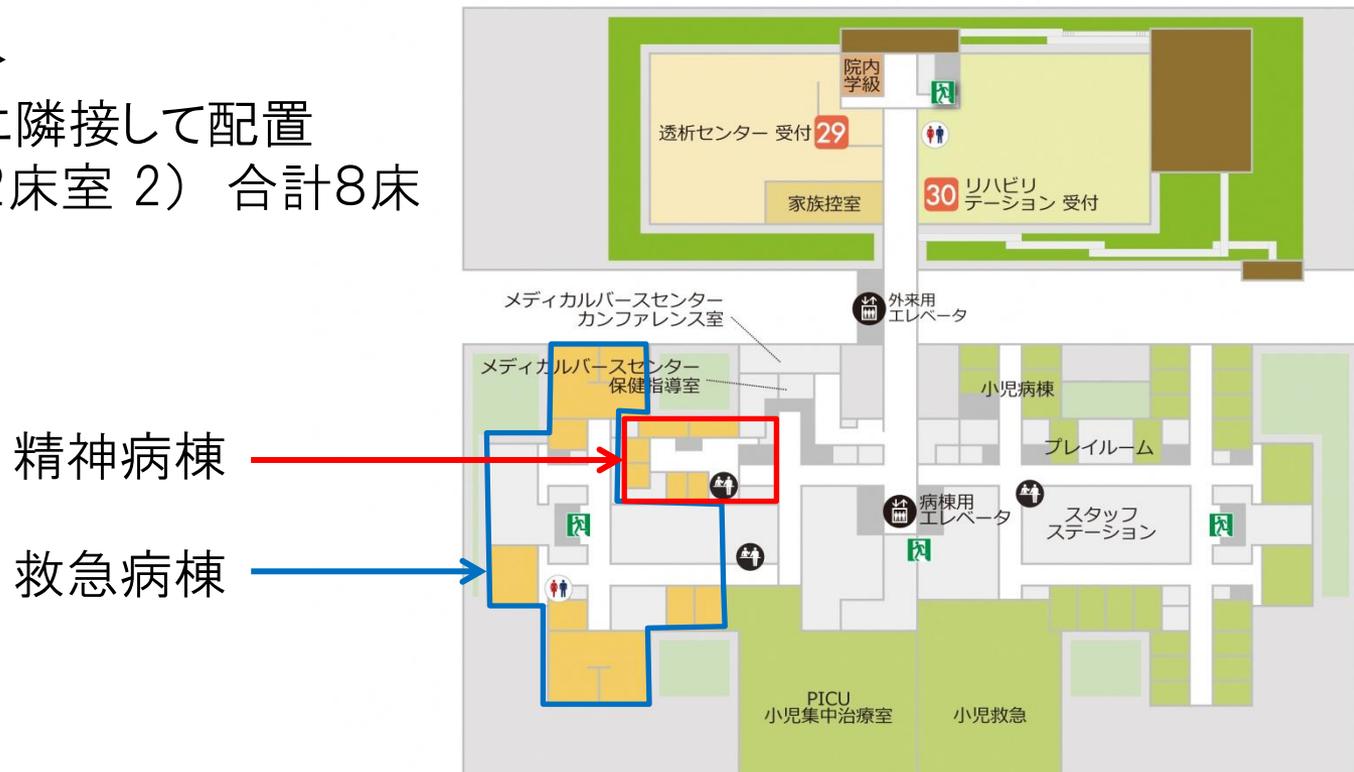
他病院事例 【精神科身体合併症病床(MPU)】

【A県立病院】

- ・総病床数 : 700床台
- ・うち精神病床 : 精神科身体合併症病床として8床整備
- ・精神科医 : 常勤医3名(うち指定医2名)、非常勤医師5名
精神保健福祉士2名

＜施設配置＞

- ・救急病棟に隣接して配置
(個室 4+2床室 2) 合計8床



<特徴>

① 救命救急センターとの円滑な連携

救命救急センターに入院した重症の患者に対する身体治療と精神科治療の切れ目のない専門的対応

② 精神科医療機関からの精神疾患患者の身体的ケアと治療

精神科病院では対応が難しい重症身体合併症で、身体的入院かつ精神科入院の必要のある患者への入院対応

③ 精神科救急医療システムの補完

救急・重症身体合併症の治療をすることで、精神科救急医療システムを補完する

④ 他の精神科医療機関との連携

身体的治療の必要性がなくなった患者は、速やかに精神科医療機関と密接な連携をとり、精神科診療に円滑に移行できるように運営

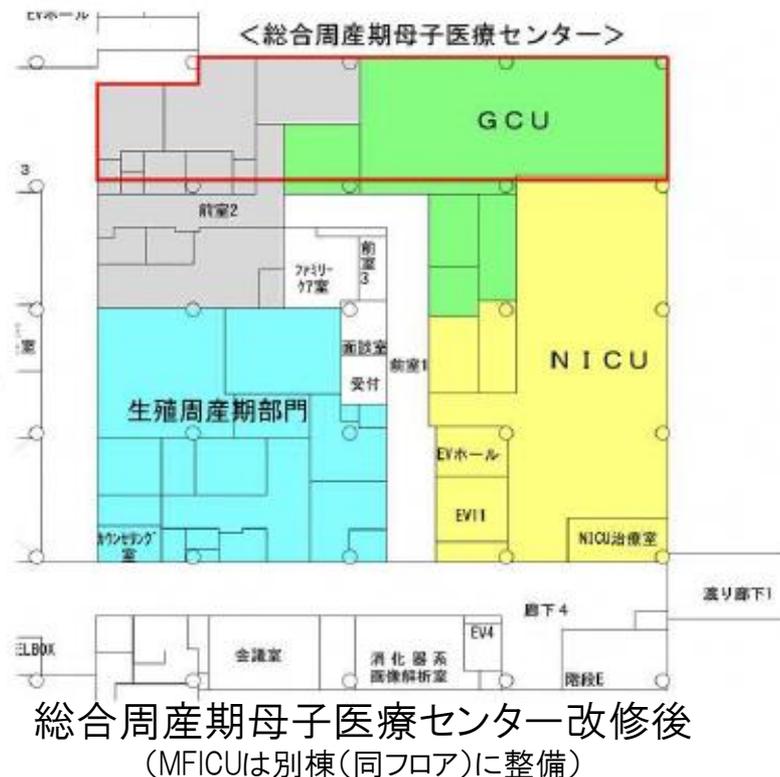
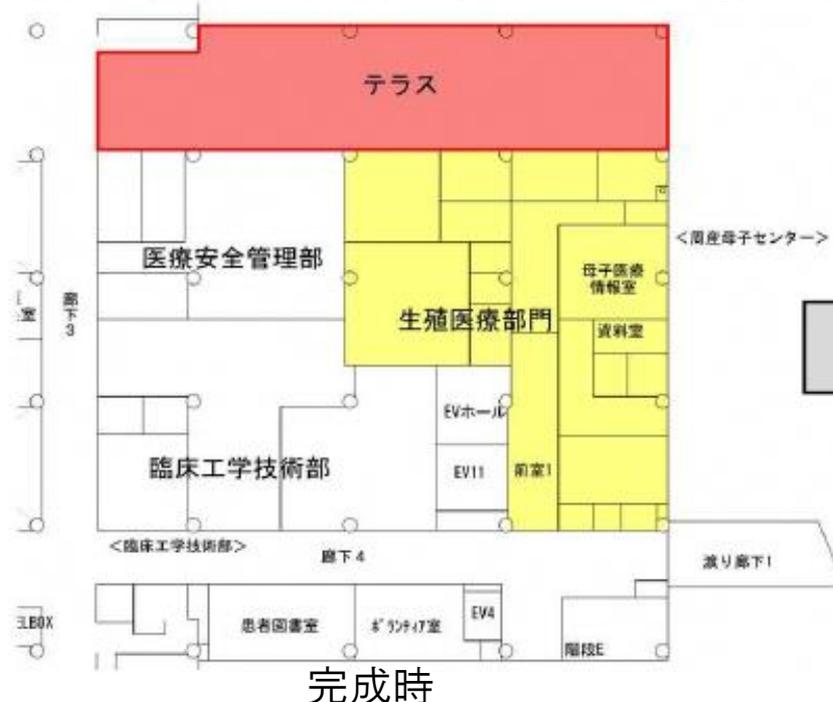
⑤ コンサルテーション・リエゾン・チーム医療の実践

身体疾患に伴う種々の心理的問題をチームで治療、また、緩和ケアや認知症ケアや透析・移植にともなう種々の心理学的問題もサポート

他病院事例 【周産期医療】

【B大学附属病院】

- ・総病床数 : 1000床台
- ・うち周産期関連病床 : NICU※1 12床、GCU※2 24床、MFICU※3 6床
- ・総合周産期母子医療センターに指定。



- ※1 NICU : 新生児集中治療管理室。集中治療を必要とする新生児のために、主として新生児医療を専門とするスタッフが24時間体制で治療を行う室のこと。
- ※2 GCU : 回復期治療室。NICUで治療を受け、状態が安定してきた新生児などがケアを受ける室のこと。
- ※3 MFICU : 母体・胎児集中治療管理室。母体又は胎児におけるハイリスク妊娠等に対応するため、主として産科医療を専門とするスタッフが24時間体制で治療する室のこと。

<特徴>

① 将来の変化に対応できる、空間の適切な配置

- ・中央診療棟の各所に**将来拡張用のテラス**を配置
- ・将来の増築にも対応できるよう、**余裕を持った建物配置計画**

② 総合周産期母子医療センターの設置による

地域医療への貢献

- ・地域の生殖周産期医療からの期待、要望を受けて、NICU、GCUを増床、MFICUを新設。
- ・NICU等の増床により、総合周産期母子医療センターの認可を取得。中央診療棟の各所に配置した**将来拡張用のテラス**を利用し、**総合周産期母子医療センター**、シミュレーションルーム等を整備

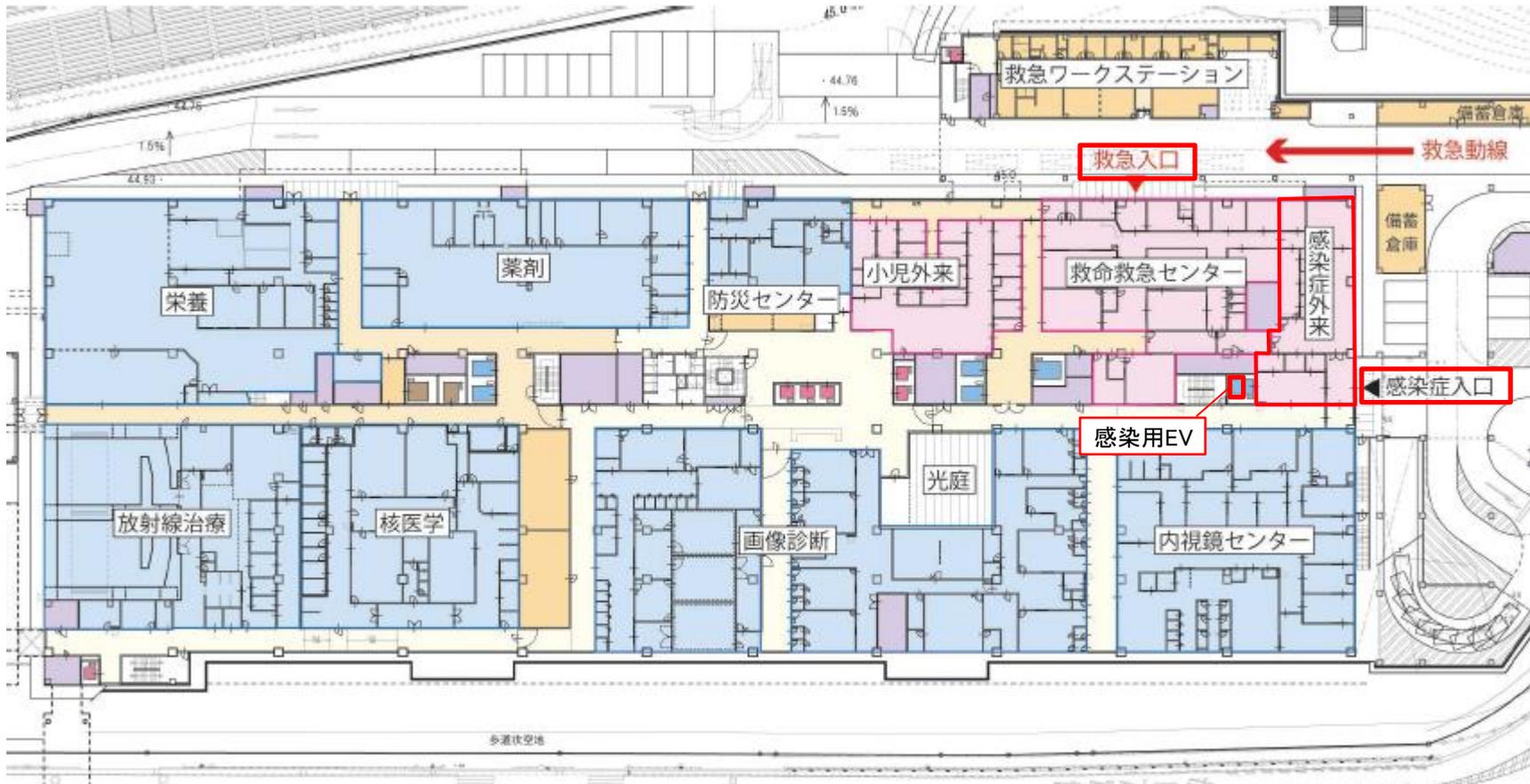
【文部科学省ホームページより作成】

他病院事例【感染症対策】

【C市立病院(建て替え中)】

- ・総病床数 : 600床台
- ・うち感染症病床 : 26床
- ・第一種感染症指定医療機関に指定

〈基本設計の概要より、地下1階の平面図〉



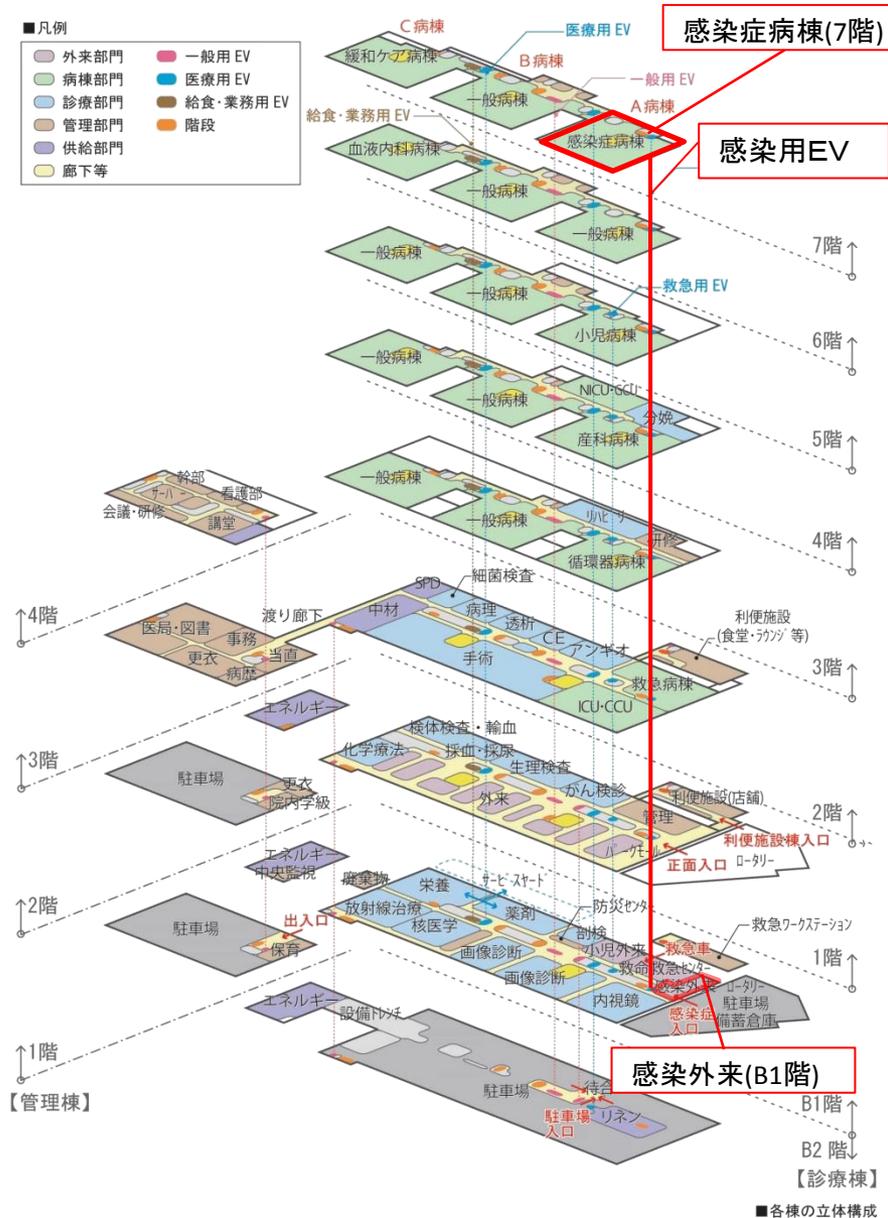
<特徴>

① 地下1階の配置計画

- 救命救急センター、ER、小児外来、感染症外来を並べて配置し、救急医療、小児救急医療、災害医療を連携して担うゾーンに整備。
- 感染症外来は**独立したゾーンとし、出入口と駐車場を分離。**

② 階層構成

- 感染症病棟は最上階である7階に配置し、地下1階の感染症外来から病室ゾーンへ**患者を直接搬送する専用のエレベータを設置。**



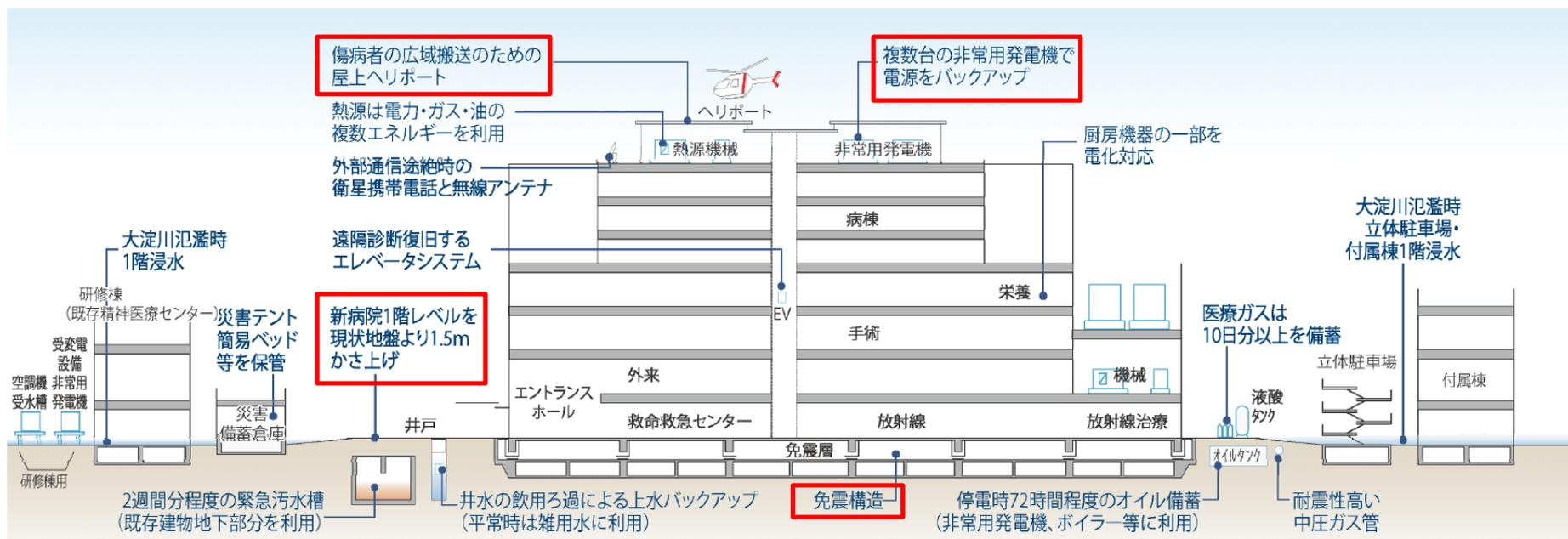
【病院ホームページより作成】

他病院事例 【災害医療】

【D県立病院(建て替え中)】

- ・総病床数 : 600床台
- ・救命救急センター、災害拠点病院等に指定。

＜基本設計(概要版)より、災害時に備えた建物計画＞



<特徴>

① 新病院の構造体

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」I類、免震構造を採用

② 浸水対策

地下階を設けず、新病院1階レベルを現状地盤レベルより1.5m程度かさ上げ

熱源(発電機)は、供給が止まることの無いよう上層階へ配置

③ 傷病者の広域搬送

専用ヘリポートを設置

④ インフラ途絶時設備対策

電力：重油を備蓄し停電時に非常用発電機を3日間稼働

通信：衛星電話、防災無線等により外部と連絡

熱源：発電機電源供給による稼働

重油を備蓄しガス/重油切替の熱源を3日間稼働

給水：上水インフラ途絶時を想定し上水・雑用水を3日間貯水
地下水を雑用水・飲用水供給

(飲用水は既設高度井水ろ過設備を介して供給)

排水：下水道インフラ途絶時を想定し14日分の汚水を貯留する

医療ガス：医療ガスを10日以上備蓄

【病院ホームページより作成】

他病院事例 【市の相談窓口等】

【E市民病院】

- ・総病床数 : 400床台
- ・病院の1階に、市直営の出先機関である地域ケア総合推進センター※を設置
※「保健」「医療」「福祉」「介護」サービスの総合相談・情報提供の窓口



<1階平面図>

<主な機能>

- ① 在宅医療の推進、医療と介護の連携を強化
- ② 地域包括支援センターの活動支援・認知症ケアの推進

<特徴>

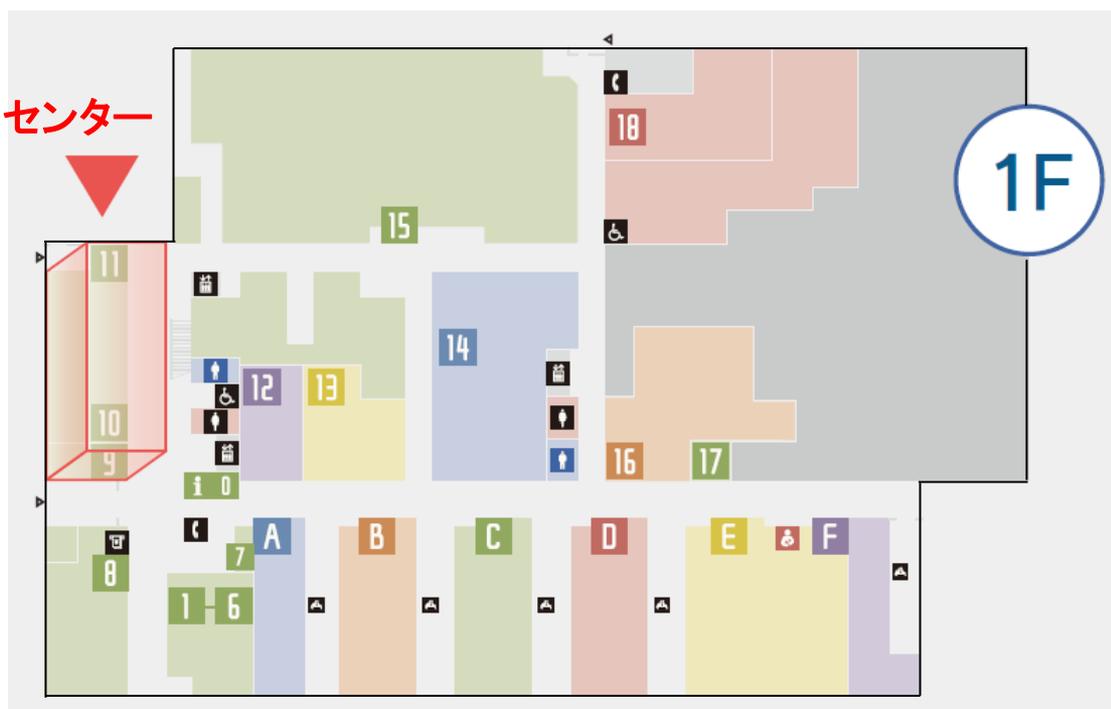
- ① 市運営のため、**市民病院以外の他の医療機関にかかっても相談可能**
- ② 相談は、**専門資格を持つ市の職員が対応**
 - ・地域ケア総合推進センターの職員内訳
 - 保健師 3名
 - 看護師 1名
 - 社会福祉士 2名
 - 事務 2名
- ③ 上手な医療のかかり方や在宅医療・看取りについて、**市民向けの講座・研修会を開催**

他病院事例 【市の相談窓口等】

【F市民病院】

- ・総病床数 : 300床台
- ・市の機関である「地域包括支援センター」のサブセンターを院内に併設し、「地域医療連携部門」及び「入退院支援部門」と連携し、入院前から退院後の生活を見据えた支援を行う。それらの部署をまとめ、名称を「地域連携センター」とした。
- ・地域包括支援サブセンターとしては、**市職員(保健師)を2名配置**している。

地域連携センター



<1階平面図>

<地域連携センターの機能>

地域連携センター

病院の機能

入退院支援

【入院支援】

- 手術や検査などのスケジュールの説明
- 入院生活についての説明・相談
- 退院を見据えた支援

【退院支援】

- 退院後の望む生活に向けた支援
- 在宅療養支援や介護サービスの調整
- 転院先の受け入れ調整 など

地域医療連携

【病診連携】

- 紹介患者の診察・検査予約・受診調整
- かかりつけ医の紹介
- いしかわ診療情報共有ネットワークの活用

【医療福祉相談】

- 退院後の生活や仕事について
- 医療費や生活費などについて
- 社会保障や福祉制度の利用について など



市の機能

地域包括支援サブセンター

【高齢者の総合相談】

- 介護予防
- 高齢者福祉サービスの利用
- 介護保険サービスの利用
- 権利擁護 など



在宅医療コーディネーター

医療・介護の専門職からの在宅生活に関する相談・支援